

課題の概要

- 課題名 「先進的マルチキャリア博士人材養成プログラム」
 - 総括責任者名 「齋藤 康」
 - 機関名 「国立大学法人 千葉大学」
- (実施予定期間：平成21年度～平成25年度)

機関の現状

千葉大学においては、理工系博士大学院生の研究は基礎研究や応用研究が主体となっており、社会が求めている製品化研究開発の経験が豊富とは言えない。また、基礎研究や応用研究を通じて専門性を深めているが、経営やマーケティングなどのマネジメント系教育を受ける機会は少ない。大学院生による英語論文はかなり増えてはいるものの、学会等においては実践的な英語による発表・討議の経験が少ない。(今後、グローバルな観点から、例えば地球環境、エネルギー、製造技術など様々な分野において英語による討議が必要となっている。)このような状況を踏まえ、本学の各研究科においては、主に技術完成力を念頭ににおいた独自の取組が行われており、徐々に成果を上げつつある。これに技術経営力や技術交渉力も加え、千葉大学の強みである総合力を生かし、相乗効果を最大限発揮した強力かつ継続的な取組による人材養成が喫緊の課題となっている。

イノベーション人材養成システムの概要

学長を総括責任者、産学連携・知的財産機構長(研究担当理事)を統括実施責任者とし、全学支援体制のもと、先進的マルチキャリア博士人材を養成する。対象領域を理学、工学、融合科学、園芸学、医学薬学の理工系5領域とし、養成対象者は本学博士後期課程の学生(ポスドク含む)から厳正に公募する。学内外委員で構成されるプログラム履修者選定委員会において審査基準に基づき選抜した20名/年の養成対象者は、各希望を考慮したキャリアパスに沿い、多様な教育プログラムが適用される。そして、“技術完成力”、“技術経営力”、“技術交渉力”の強化に向けた博士人材養成を実施する。

本プログラムは養成対象者、本学理工系5領域の大学院、国内外協力企業、(財)千葉県産業振興センターによる4者の連携のもと実施する。人材養成室において、学内委員、国内外協力企業、(財)千葉県産業振興センターで構成する各プログラム委員会による養成プログラムに基づく継続的フォローの実施とともにアドバイスや評価を行う。外部有識者を交えた運営会議を最高決定機関とし、技術完成力、技術経営力および技術交渉力の各プログラム終了時に厳正な各評価基準に基づく評価を行い、修了を最終的に決定する。

ミッションステートメントの概要

博士後期課程に在籍する優れた学生等の10%を養成対象者と考え、年間20名を選定する。養成期間は10月～翌年度9月の1年間とする。以上より、5年間で輩出する先進的マルチキャリア博士人材の総数を100名とする。

プログラム終了後も学長のリーダーシップの下、本プログラムを継続的に発展させ、本学の人文・社会・自然科学全分野の博士後期課程養成システムとして発展させる。

提案課題名

先進的マルチキャリア博士人材養成プログラム

実施体制

学長(総括責任者)

外部評価委員会

センター長(統括実施責任者)

外部有識者を交えた
最高決定機関

運営会議

人材養成室

人材養成室長(実施担当)

プログラム履修者
選定委員会

技術完成力
プログラム委員会

技術経営力
プログラム委員会

技術交渉力
プログラム委員会

外部有識者を交え厳正
な選定基準に基づき
履修者選定
(運営会議より人選)

外部有識者を交え、プログラムを構築し、養成を推進する
とともに厳正な評価を行う

理学研究科

工学研究科

医学薬学府

融合科学研究科

園芸学研究科

3つの力を
身につける

オール千葉大
(自然科学系)
として取り組む

マルチキャリアセンター

県内ベンチャー企業
県内中小企業

(財)千葉県産業
振興センター

国内企業
海外企業

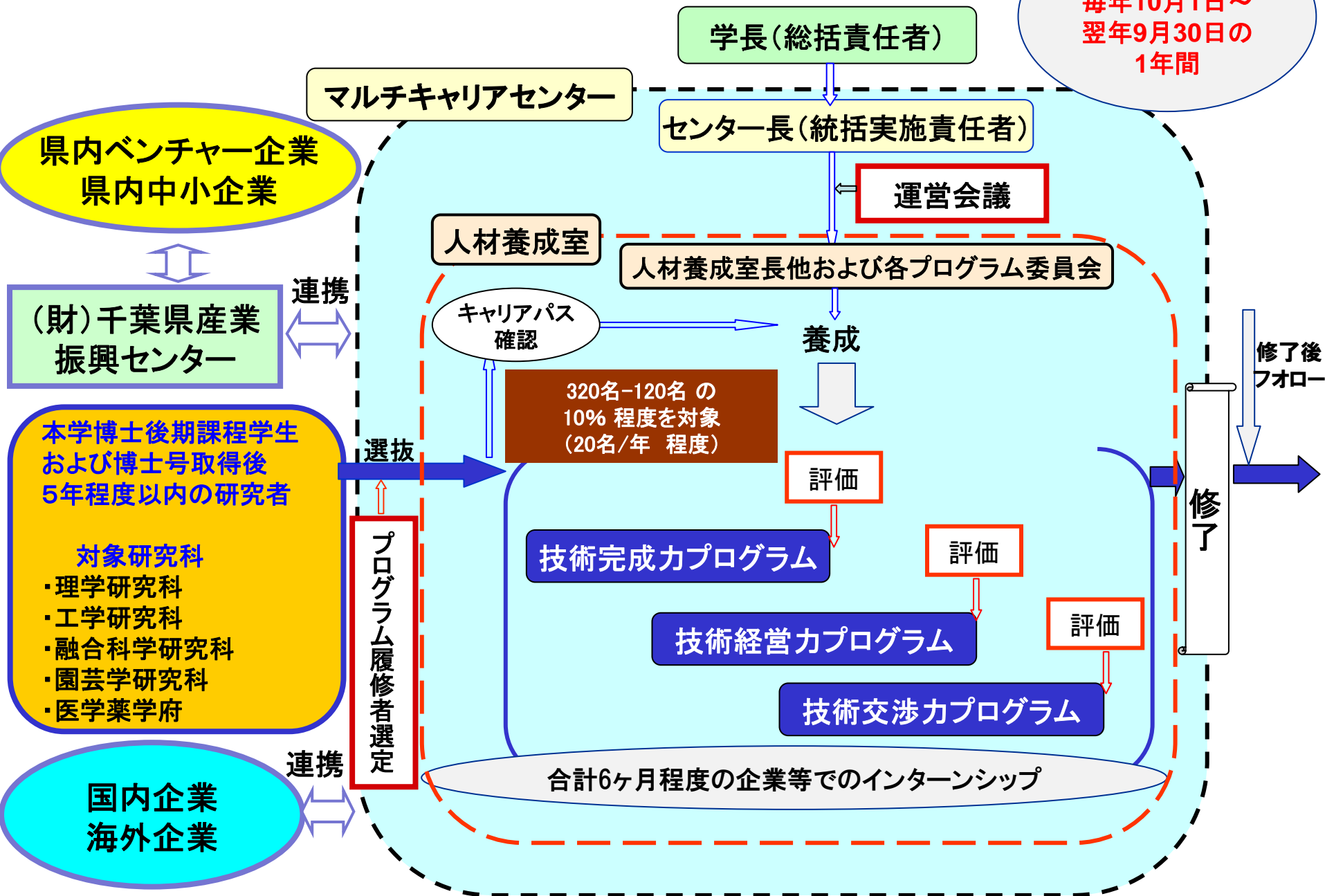
博士取得後、イノベーションの
旗手として企業等へ就職

連携

連携

実施内容

養成期間
毎年10月1日～
翌年9月30日の
1年間



ミッションステートメント

- 提案課題名 : 「先進的マルチキャリア博士人材養成プログラム」
- 総括責任者名 : 「齋藤 康」
- 提案機関名 : 「国立大学法人 千葉大学」

(1) イノベーション博士人材養成システムの概要

千葉大学の博士課程学生のトップクラスの10%程度を養成対象者と考え、履修対象人数を20名/年間とする。養成期間を、当年度10月～翌年度9月の1年間とし、毎年、20名を輩出していく。5年度目は助成期間が途中で終了するが、最重要プログラムとして位置づけている観点から、学内において予算措置を行い、本プログラムを遂行する。以上より、5年間で輩出する先進的マルチキャリア博士人材の総数を100名とし、各自の専門能力をベースに“技術完成力”、“技術経営力”、“技術交渉力”を真に有する、我が国の新産業創出と知の国際競争に勝ち抜く新しい博士像（千葉大発博士改革）となるリーダー的人材を養成する。

プログラム終了後も学長のリーダーシップの下、本プログラムを継続的に発展させ、本学の人文・社会・自然科学全分野の博士課程養成システムとして発展させ、さらに、日本全国の博士課程養成システムのモデルとして波及することが期待される。

(2) 3年目における具体的な目標

3年目終了時、20名/年×3年=60名を輩出している。そのうち、博士後期課程学生は15名/年×3年=45名程度であり、ポストドクターは5名/年×3年=15名となる。

	養成対象者	養成期間 (ヶ月)	到達レベル	養成人数	産業界への 輩出人数
3年目	博士後期課程 在籍者	12ヶ月	製品開発、事業企画部門リーダー	45名程度	36名程度
	ポストドクター	同上	同上	15名程度	12名程度

(3) 実施期間終了時における具体的な目標

5年目終了時、20名/年×5年=100名を輩出している。そのうち、博士後期課程学生は15名/年×5年=75名であり、ポストドクターは5名/年×5年=25名と予想される。なお、各養成期間は、当年度10月～翌年度9月の1年間とした。5年目は途中で助成期間が終了するが、自己負担にて本プログラムを遂行する。

	養成対象者	養成期間 (ヶ月)	到達レベル	養成人数	産業界への 輩出人数
終了時	博士後期課程 在籍者	12	開発部門、事業企画部 門のグループリーダー または課長レベル	75名	65名程度
	ポストドクター	同上	同上	25名	20名程度

(4) 実施期間終了後の取組

- ・ 6年目以降の先進的マルチキャリア博士人材養成システムの学内定着および発展
- ・ 学内同領域の修士や学士に対する本コンセプトに基づくプレ博士人材養成の実施
- ・ 本人材養成適用範囲を学内人文・社会系へ拡大
- ・ 構築した諸々の人的ネットワークの維持・拡大および活用による、さらなる産学連携の推進および新規プロジェクトの創出

(5) 期待される波及効果

- ・ 他大学において比較的簡便且つ迅速に活用可能なプログラム
本プログラムは、学内の単位構成をベースに、既存カリキュラムを活用しつつ新規カリキュラムを組み合わせたプログラムとなっているため、他の大学においても、状況に合わせて比較的簡便且つ迅速に本プログラムの活用が可能である。
- ・ 他大学波及後の効果 ～他の公的研究機関への波及～
他大学に波及した後、他の公的研究機関への波及も期待できる。本プログラムはインターンを主軸に置いた1年の構成であることから、他の公的研究機関のポストドク研究員においても魅力ある取り組みと考えられ、本プログラムの定着が期待できる。
- ・ 他大学波及後の効果 ～民間企業への波及～
本プログラムにより、インターン実施への理解が進み、参加企業が増えれば、さらに多くの企業が博士学生及びポストドク研究員との接点を持ち、博士研究者の就職問題の解決の一端を担えることができると期待できる。また、本プログラムにより輩出された優秀な若手研究人材が産業界でリーダーシップを発揮することで、グローバル市場におけるシステム、仕組み、及び技術標準の獲得が期待できる。